

TINDAK TUTUR KOMISIF BAHASA JEPANG DALAM ANIME *WORKING* KARYA KARINO TAKATSU

Prio Kukuh Yulistiohadi
43131.520170.088

STBA JIA
2021

ABSTRAKSI

Penelitian ini berjudul “Tindak Tutur Komisif Bahasa Jepang Dalam Anime *Working* Karya Karino Takatsu” yang bertujuan untuk mengetahui jenis dan fungsi serta latar belakang penggunaan tuturan komisif pada anime *Working* season 1 episode 1-13 karya Karino Takatsu. Metode penelitian yang digunakan adalah metode deskriptif dengan pendekatan kualitatif. Analisis data dilakukan dengan mengklasifikasikan data menggunakan metode simak bebas libat cakap dan teknik catat. Data dianalisis menggunakan teori Koizumi dan teori dari Ibrahim. Objek data dari penelitian ini adalah anime yang berjudul *Working* season 1 episode 1 sampai episode 13. Hasil dari penelitian ini terkumpul data tuturan komisif sebanyak 41 data. Dari 41 data, didapatkan 17 data jenis tindak tutur *promises* (menjanjikan) dan 24 data jenis tindak tutur *offers* (menawarkan). Untuk jenis tindak tutur *promises* (menjanjikan), ditemukan fungsi berjanji sebanyak 2 data, berkontrak 1 data, bersumpah 2 data, menjamin 2 data, menyerah 4 data, dan memperingatkan 6 data. Sementara untuk jenis tindak tutur *offers* (menawarkan), ditemukan fungsi menawarkan 9 data dan mengusulkan 15 data. Untuk konteks penggunaan tuturan berbeda-beda tergantung bagaimana situasi kondisi percakapan. Dengan siapa dia bicara, dengan tujuan apa dia bicara, dan lain – lain.

Kata kunci: pragmatik, tindak tutur, komisif

かりのたかつの「ワーキング」のアニメにおける日本語の 言明的な発話行為

プリオ・ククー・ユリスティオハディ
43131.520170.088

STBA JIA
2021

要旨

本研究は、かりのたかつの「ワーキング」のアニメに日本語の言明的な発話行為、たかつかりのアニメ「ワーキング」第1話～第13話での言明的な発話行為の使用の背景や種類や機能を決定することを目的である。データ分析は、自由に話すリスニング方法とノート取り技術を使用してデータを分類することによって実行された。小泉の理論とイブラヒムの理論を用いてデータを分析した。本研究のデータ対象は、「ワーキング」のアニメ第1話～第7話である。この研究の結果は、41ものデータを収集した。41のデータから、17のデータタイプの発話行為の約束と24のデータタイプの発話行為の提供を取得した。約束の発話行為の種類については、2つのデータ約束機能、1つのデータ契約、2つのデータ誓約、2つのデータ保証、4つのデータ放棄、および6つのデータ警告がある。一方、発話行為の提供（提供）の種類については、関数が9つのデータを提供し、15のデータを提案することである。スピーチの使用の文脈については、会話の状況によって異なる。彼は誰と話しているのか、どのような目的で話しているのかなど。

キーワード：語用論、発話行為、言明的

かりのたかつの「ワーキング」のアニメにおける日本語の 言明的な発話行為

第一章

はじめに

A. 背景

社会的存在としての人間は、日常の活動を行う上でコミュニケーションが必要です。コミュニケーションの主な手段は言語である。言語では、人間は発話行為の行動から切り離すことはできない。発話行為は言語の一形態です。周囲のコミュニティとのコミュニケーションと相互作用の両方である。Nuradha (2020, 2) の Searle によればさまざまな基準、つまり、発話行為、発話内行為、発話媒介行為 発話行為を分類している。発話内行為は断言的、言明的、表出的、宣言的、指示的に基づいて、発話行為を分類している。その背景で、著者はかりのたかつの「ワーキング」のアニメに日本語の言明的な発話行為について研究して行きたい。

B. 問題の定式化

背景によると、問題は：

1. 「ワーキング」のアニメに使用される言明的な発話行為の種類と機能であるか？
2. 「ワーキング」のアニメに言明的な発話行為の使用の文脈はどうでしょうか？

C. 研究の目的

1. 「ワーキング」のアニメにあった言明的な発話行為の種類と機能を理解する。
2. 「ワーキング」のアニメにあった言明的な発話行為の使用の文脈を理解する。

第二章 理論的な基礎

A. 語用論

Shigehiro (2004, 119)によれば語用論は、本来ことばの実際の運用を研究する分野として出発した。ことばの実際運用を分析するには、話し手と聞き手の知識状態や発話状況や先行発話などの（文脈）が重要になる。とすれば、語用論は会話のやりとりだけを分析し、他のデータは扱わないのでしょうか。また、社会制度的語用論など言語運用や言語行動の社会における位置づけを扱う領域があるにしても、ことばの歴史や、ことばと心理の関係である。

B. 言語行為

Iino (2006, 91)人は、言葉をもちいてさまざまな行為を行う。名前や指示詞、確定記述などをもちいて何らかの事物を指し示す行為もあれば、指示した事物のありようについて何かを述べる行為もあり、それらを通して一定の世界の事実を描写したり表象したりする行為も行われる。

C. 発話行為の分類

Chaer (2010, 29-30)のSearleによれば発話内行為は断言的、言明的、表出的、宣言的、指示的に基づいて、発話行為を分類している。

D. 言明的な発話行為

Koizumi (1996, 337)話し手が、将来における行為の実行を言明する。（約束、警告、忠告、宣誓、など）。

E. 言明的な発話行為の機能

Ibrahim (1993, 34-35)によれば強制的な発話行為は、約束と申し出の2つのタイプに分けられる。約束には、ののしり、それを誓う、契約、賭け、保証、降伏、招待などの機能がある。オファーの機能には、提案、ボランティア、入札が含まれる。

F. 文脈

Arifin と Ratna (2016, 6) の Hymes によれば「*Speaking Of Model*」と呼ばれる彼の理論の文脈の火花を散らした側面。 *Setting and Scene, Participants, Ends, Acts, Key, Instrumentality, Norms, Genres*。

第三章 研究の方法

A. 研究方法

著者がこの調査を調査するために使用した調査方法は、記述的調査方法を使用することである。

B. 研究の手順

本研究の文書はこの通り研究の工程を援用される。

1. 計画
2. データ準備
3. 完了

C. データの収集の技法

本研究にデータを収集するために、筆者は聴講記法を援用している。

第四章 データ分析

この章では、ライターが概要、データ公開、データ分析、および研究結果について説明する。このデータ分析は、研究対象、つまりアニメ「ワーキング」をもとにしている。分析には、言明的な発話行為の種類と機能、およびそれらの使用の背景が含まれる。さらに、この研究は、第2章で説明されている理論、つまり Koizumi と Ibrahim による言明的発話行為である。

第五章 結論と提案

A. 結論

本研究の結果は、41ものデータを収集した。41のデータから、17のデータタイプの発話行為の約束と24のデータタイプの発話行為の提供を取得した。約束の発話行為の種類については、2つのデータ約束機能、1つのデータ契約、2つのデータ誓約、2つのデータ保証、4つのデータ放棄、および6つのデータ警告がある。一方、発話行為の提供（提供）の種類については、関数が9つのデータを提供し、15のデータを提案することである。背景については、発話行為の使用が異なる。入手可能な41のデータのうち、最も一般的な背景は、伊波が男性を恐れているためである。

B. 提案

1. 本研究が洞察を深めるだけでなく、生徒が既存の発話をよく理解できるように、タイプと機能、および日本語の発話行為の使用の背景についての知識と理解を深めることができることを願っている。
2. 本研究が参考になり、別の理論を使用して日本語の言明的な発話行為についてより詳細な研究を行うことを提案することを願っている。